施策名：内外広報・文化交流・報道対策

2025（令和7）年８月
外務報道官・広報文化組織
広報文化外交戦略課
国内広報室

分野１：国内広報の実施

中期目標

日本の外交政策・活動に関し、訴求対象に応じた多様な広報活動を通じて、日本国民の理解と信頼を増進する。

過去３年度（令和４～６年度）の主な成果	課題及び今後の方向性
【国民に対する直接発信、ホームページを通じた情報発信】 ● 全般：過去３年間では、令和５年のG7広島サミットに関する公開授業を始め、外交行事や周年等の時宜も踏まえつつ、訴求対象に応じた広報活動を展開し、国民の日本外交に対する理解促進に寄与した。	【国民に対する直接発信、ホームページを通じた情報発信】 ● 全般：外交政策を円滑かつ強力に推進していくためには国民の理解と支持が不可欠であり、外務省の諸活動や外交政策について国民の幅広い年齢層への積極的かつ継続的な情報発信が必要である。引き続き、訴求対象に応じた多様な広報活動を展開していく。
● 各種講座：国民に対する直接発信として、「外交講座」では大学の希望するテーマにふさわしい省員登壇者を派遣し、質の高い講義を行ったことでいずれの年度も96%以上の参加学生から「外交政策について理解が深まった」との回答を得た。「高校講座」では、各校の希望テーマを踏まえた内容で在外公館勤務経験者を中心に講師を選出したことで、事後アンケートにていずれの年も95%以上の生徒から高評価を得た。また、一般向けの「国際情勢講演会」でも、いずれの年度も参加者の95%以上が講演会に参加して外交政策についての理解が深まったと回答しており、若年層から一般までいずれのレベルにおいても外交政策・国際情勢に関する知識の普及・理解促進に寄与した。	● 各種講座：国民に対する外交テーマ別の直接発信については、アンケート結果から高い評価を得ているが、引き続き裾野の拡大が課題である。「国際情勢講演会」、「外交講座」、「高校講座」といった全国の自治体や国際交流団体、大学や高校に派遣する事業については、質の高い講義・内容は維持しつつ、各事業の特性や実施状況等を勘案しつつ一層の広がりを得られるよう、SNSの活用、働き掛け等について検討を進める。
● 「学生と語る」：参加大学生（本省３回、地方２回開催：計738名参加）の99%が外交政策等への理解が深まったとアンケートで回答した。外務省員による講義、少人数でのグループワーク、省員との懇談に加え、令和６年度本省開催では、それまで単独行事であった政策提言型のプレゼンテーションを組み込む等して、理解の深化につながる学生参加型プログラムの充実を図る工夫をした結果、参加型の形式が良かった、次回も参加したい等の肯定的コメントが多く寄せられた。プレゼンテーションについては、過去の入賞者の多くがその後、国際分野や官庁等に就職しており、特に令和４年度優勝者は外務省に入省するなど、将来の国際関係や外交政策を担う学生を輩出する成果を得た。	● 「学生と語る」：次世代を担う大学生・大学院の学生層を訴求対象とした本取組では、アンケート分析も参考にしながら、外交政策にかかる理解がより深まるような学生参加型プログラム内容の充実、事業の質の向上を更に図り、訴求対象の裾野を広げ、有効性をさらに高めていく観点から、未実施地域での地方開催を行う工夫等を検討する。

過去３年度（令和４～６年度）の主な成果（続）

- 「小中高生の外務省訪問」：実施後アンケート結果にて令和４年度は約87%、令和５年度は約95%、令和６年度は約98%の生徒から高い評価を得た。こども向けとしては過去３年度「こども霞が関見学デー」を開催（対面で延べ1,061名、オンラインで662組が参加。）し、多くのプログラムで参加者の満足度が高かった。

- ホームページ（HP）を通じた情報発信：外務省HP「キッズ外務省」のコンテンツの更新・拡充を行い、 HPのアクセスが令和３年度1,100万件、令和４年度1,420万件、令和５年度1,400万件、令和６年度2,150万件と大幅に増加した。特に、新たに動画コンテンツを掲載した「動画で見る外務省の仕事」のアクセス数は、令和３年度は39,026件だったが、令和６年度179,207件に飛躍的に増加した。SNSでも「分かりやすい」、「楽しく学べる」といった声が多数挙がった。また、「わかる！国際情勢」も令和６年度に掲載記事を拡大したことで、アクセス数が最大約7倍に増加した。

- 外交専門誌『外交』：一般・有識者向けに、外交専門誌『外交』を各年度それぞれ６回発行し、認知度向上に向けてSNSでの紹介や講演会・各種行事等の機会を活用して積極的に案内を行い、令和５年８月からは電子書籍のKindleでの取扱いを開始した。「国際情勢講演会」の際の共催団体への見本誌送付、「外交講座」の際の当省職員講師からの紹介等働きかけを実施しているほか、「学生と語る」にて、参加学生へ見本誌を紹介している。全国紙の書評にて度々取り上げられ、質の高い論壇誌として外交政策に関する理解促進に寄与した。

- パンフレット作成：コンパクトで分かりやすいリーフレットの作成を積極的に実施するとともに、デジタル化を進めた。外務省公式SNS等でも積極的に紹介しているほか、「外交講座」等の各種講座において、電子版のパンフレットを共有し、 「学生と語る」でも、各種パンフレットを紹介している。外務省HPにおける「パンフレット・リーフレット」ページへのアクセス数は、令和４度49万件、令和５年度51万件、令和６年度57万件と50万件程度のアクセス数を堅実に維持した。

課題及び今後の方向性（続）

- 「小中高生の外務省訪問」：アンケート結果等を踏まえ、申請方式の改善等による学校側の業務合理化やニーズへの対応に努める。

- ホームページを通じた情報発信：対象としてより多くの若いユーザー層に広げていくことが重要であり、また、コンテンツを届ける上で新規掲載・更新が重要である。令和5年度行政事業レビュー公開プロセスにて引き続きのコンテンツ拡充に努めるよう指摘があったことから、外務省HP「キッズ外務省」では、親しみやすく分かりやすいコンテンツの拡充に一層努める。

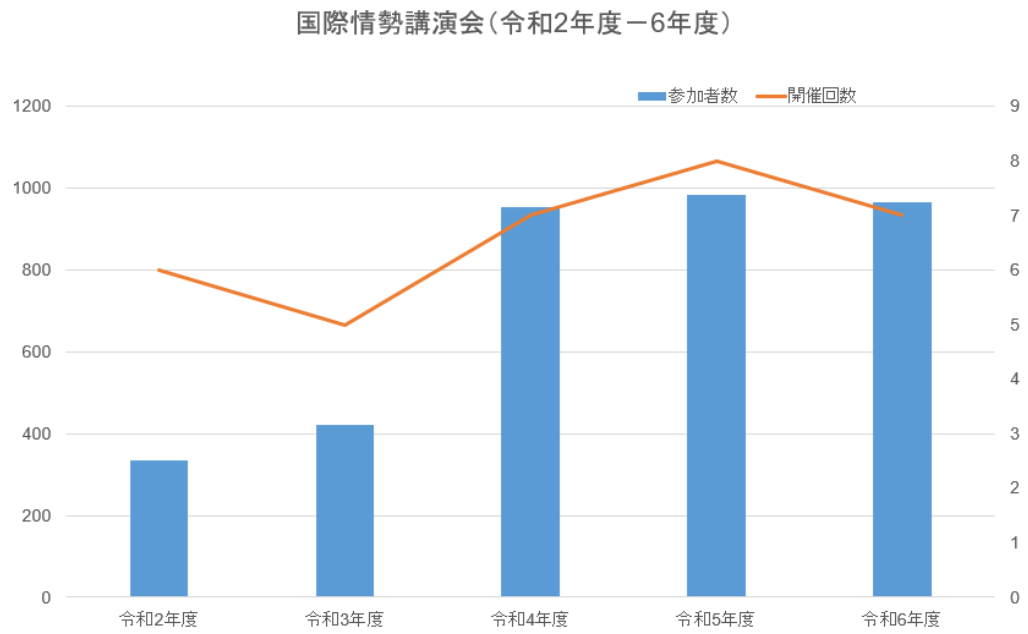
- 外交専門誌『外交』やパンフレット：無関心層を含む幅広い国民への働き掛けとして引き続き紙媒体も有効であることから、予算の確保とともに、手に取る読者層の一層の拡大が課題であり、各種イベントの機会を捉え、一層の広報に努める。特に、『外交』については、潜在的な読者層となる学生の反応・ニーズを探るべく、オンライン・アンケート等の実施を検討し、パンフレットについては、外務省公式SNSと連携する等、電子媒体の広報も引き続き強化していく。

（主な取組）

● 外交青書
国民の支持を得て進める外交（1(3)及び(4)参照）
2023年版、2024年版、2025年版（PDF版　p.333）

● 外務省HP
国際情勢講演会（ページ内「開催実績」参照）
外交講座（ページ内「開催実績」参照）
学生と語る（ページ内「開催報告」参照）
高校講座（令和４年度、令和５年度、令和６年度 ）
小中高生の外務省訪問（令和４年度、令和５年度、令和６年度 ）
こども霞が関見学デー（令和４年度、令和５年度、令和６年度 ）
キッズ外務省
外交専門誌『外交』

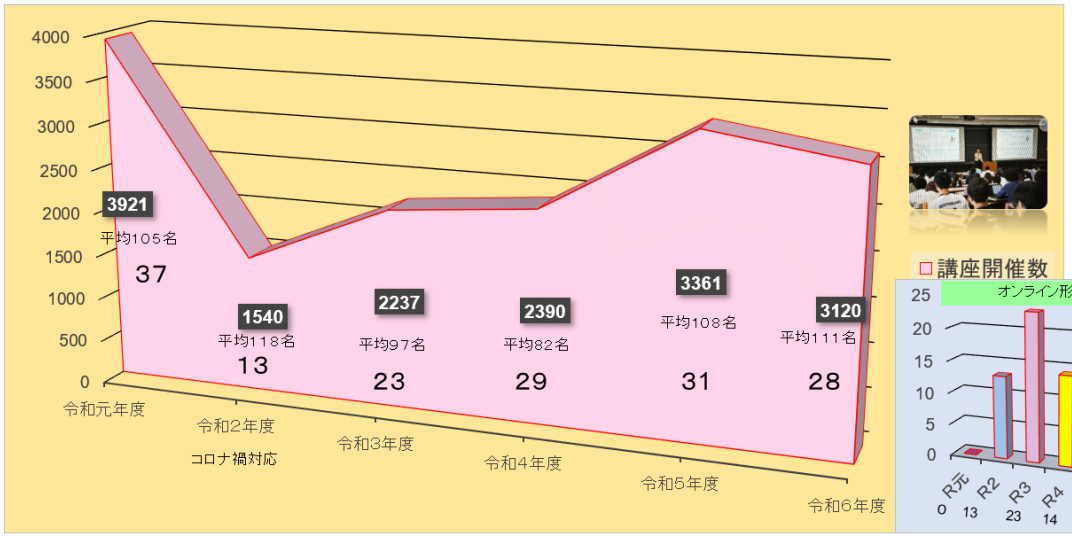
●「国際情勢講演会」実施実績の推移

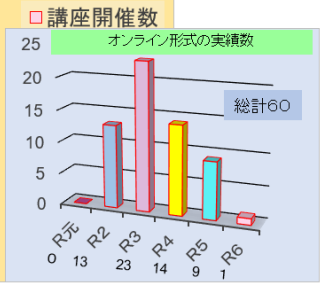


（主な取組）

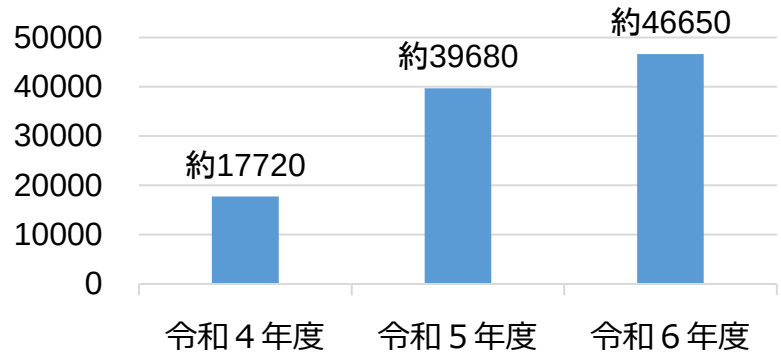
●「外交講座」実施実績の推移（令和７年３月10日時点）

＜平成6年度開始＞
・令和2年度実績：13講座　1，540人参加
（新型コロナウイルス感染症拡大のため、9月からオンラインで実施）
・令和3年度実績：23講座　2，237人参加
・令和4年度実績：29講座　2，390人参加
・令和5年度実績：31講座　3，361人参加
・令和6年度実績：28講座　3，120人参加





●広聴活動（メール、電話、FAX、書簡等で寄せられた国民の意見の件数）



（注）評価書を作成するに当たっては、外交青書、外務省ホームページ等を使用した。